

第6回福祉用具専門相談員研究大会 抄録原稿（記入見本）

氏名(所属)
コイズミミキ 小泉 美紀（株式会社カクイックスウィング）

【演題】（フォント：MS明朝，フォントサイズ：10.5）（要旨文字数：全角約300文字）

演題 (副題)	介護老人福祉施設でのロボット導入における現状と課題
要旨	高齢者施設の中でも重度化が顕著である特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）において、実際の介護ロボット・機器導入の実態を把握し、介護ロボット導入に向けた条件・問題点の構造を明らかにすることを目的とする。

【本文】（フォント：MS明朝，フォントサイズ：10.5）（本文文字数：全角約1,250文字）

【目的】

65歳以上の高齢者数は2025年には3,677万人となり、2042年にはピークを迎える予測（3,935万人）。また、75歳以上高齢者の全人口に占める割合は増加していき、2055年には25%を超える見込みであり、介護ニーズの急増と多様化に対応する必要がある一方、人口減少社会の到来で生産年齢の介護人材の確保が困難になる状況の中においても、介護の質を確保し向上させていく介護現場の直面する課題となっている。こうした人手不足の中であっても介護現場が地域における安心の担い手として役割を果たし続けるため介護ロボット等の機器の導入が推進されているが、宮崎県内の介護老人福祉施設における介護ロボットの導入までの道のりや導入後の実情を明らかにすることで、実際に活用している場面を把握し介護ロボットの有効性や課題を探り高齢者施設のニーズに適した実用性の高い介護ロボット及び福祉用具の提案に繋げたいと考えた。

【方法】

「社会福祉法人信和会 特別養護老人ホーム住之江」のご協力のもと、施設長やユニットリーダー、主に介護ロボットを使用いただく介護現場のスタッフへ、介護ロボット及びインカム利用による「身体的・精神的な負担の変化」「作業時間の変化」「介護者・ご利用者への効果」「介護ロボットへ期待すること」「費用対効果」「人材確保につながっているのか」等の無記名式アンケートを実施し集計を行った。

<導入機器>

- ①眠り SCAN NN-1520
- ②眠り SCAN eye 対応カメラ KZ-X8192
- ③インカム(クリアトークカム) KX-Z837

【倫理的配慮】

研究対象となる「特別養護老人ホーム住之江」様に研究内容・方法を口頭と文書で説明し、入所中のご利用者様については撮影を控えることや施設名を公表することなど書面にて承諾を得た。

【結果】

アンケート調査に職員49名中41名（83%）から回答を得た。介護ロボットの導入当初と現在を比較し、導入後の効果を明らかにすることができた。アンケート調査から介護職員の身体的・精神的負担軽減につながれていることが分かった。具体的に職員の1日の移動歩数が、20,000歩/日→7,000歩/日へ減少したとの回答があり、介護ロボットが身体的負担軽減に寄与している状況把握ができた。

【考察と今後の課題】

人材不足が問題となっているなか、離職率低下と人材確保を目的として導入した介護ロボットが一定の効果を発揮している。一方、職種によって否定的な意見も含まれており、問題解決のための対策を急ぐ必要があることも実感している。今後、この調査結果をもとに更に活用できる仕組みを構築する予定としている。